

名古屋 教区ニュース

第462号

2026年 1月

〒461-0004
名古屋市東区葵2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

2026年

聖年の恵みを受けて、
すべての人の
幸せと世界の平和を祈ろう。

教区ホームページ

福音の
ひびき

1月の説教者

- 1日 神の母聖マリア
秋元 伸介
(布池教会)
- 4日 主の公現
窪口 松雄
(北陸ブロック)
- 11日 主の洗礼
伊藤 大有
(東山教会)
- 18日 年間第2主日
古川 利雅
(日比野教会)
- 25日 年間第3主日
片岡 義博
(北陸ブロック)

2026年 新年のあいさつ

聖年から新しい希望にむけて

＋ 新しい年のはじめに皆さまへの
祝福を祈ります。

昨年、カトリック教会は「希望の巡
礼者」というテーマのもとに聖年を
祝ってきました。名古屋教区でも、一
年を通してそれぞれの小教区、ブロッ
ク、あるいは教区レベルでの祈りの集
いや巡礼、またさまざまな企画が行わ
れました。

昨年、この聖年の間に教皇フランシ
スコが亡くなりました。教皇フラン
シスコは、亡くなる前日、すなわち復
活の主日にバルコニーに立ち、力をふ
り絞って集まった人々にメッセージを
送りました。最期まで人々に平和を訴
え、人々ともに歩む姿を見せてくれた
この姿こそ、私たちにとても大きなし
るしであり、希望だと思えます。そし
て、神は教皇フランシスコの意志を継
ぐ新しい教皇レオ14世を与えてくださ
いました。



教区司教

松浦 悟郎

教皇レオ14世の私たちへの最初の挨拶は、「あなたがたに平和があるように」という言葉でした。そして、(キリストの平和は)「謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです」と語り、さらに、次のように続けました。「神はわたしたちを愛してください。神はわたしたちを愛してください。神はわたしたちを愛してください。悪が打ち勝つことはもはやありません。わたしたちは皆、神の手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手と手をつないで、前に進んでいきましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立って歩んでください。世界はこの方の光を必要としています。人類は、神と神の愛に達するための橋として、この方を必要としています。皆さんもわたしたちを助けてください。対話と出会いによって互いに橋をかけるために。わた

したちが皆、一つに結ばれて、常に平和のうちにあり、唯一の民となることのできるために。教皇フランシスコよ、ありがとうございます。」

教皇レオ14世はこのように、キリストこそ神と人類を結ぶ「橋」であり、私たちも互いに一つに結ばれて「橋」をかけようと呼びかけました。暴力、軍事力の誇示、そして難民移民の排斥、あらゆる差別は人類を分裂させるものです。聖年を経てわたしたちが目指すものは、神の前に人類が一つになること、すなわち神の国の実現です。

私たちは元日に「神の母聖マリア」と共に、世界平和を願って新しい年を歩みだしました。昨年の聖年の間に頂いた多くの恵みに力づけられた私たちは、さらなる希望の巡礼にでかけましょう。すべての人の幸せと世界の平和を祈りながら。

1月1日は神の母マリアの日

新年を迎え、降誕8日目にあたる1月1日に、教会は、ローマの古い伝統に従い、神の母マリアの祭日を祝う。

「神の母」という聖母マリアに対するこの称号は、ギリシア語は *Θεοτόκος*、「テオトコス(またはセオトコス)」という言葉である。その意味は *Θεός*「テオ」は「神」、*τοκος*「トコス」は「産む者」だそうである。マリアは神を産んだのだから、神よりも上の存在なのかというそれは間違っている。マリアはキリストの「神的位格」つまり「まことの神であるイエスを産んだ母であり、神の本性において産んだ母ではない。「子である神」の母ということである。聖アタナシオ司教教会博士として知られるアレキサンドリアのアタナシオスはマリアを *Λογος*「*Logos*」神の御言葉の母と称していた。

マリアを「神の母」と宣言したのは、431年のエフェソス公会議である。しかし、その宣言は簡単になされてはいない。コンスタンティノープル総主教のネストリウスは、この称号を否定して人的位格を生んだクリストトコス(*Χριστοτοκος*・救世主(*Χριστος*)を産む者(*τοκος*)という新たな称号を提唱し、聖人ではあるが神の母ではないと主張した。この争いを調停するため、エフェソス公会議が召集され、ネストリウスの教義は異端であると宣告され、マリアが神の母であることが宣言された。

この「イエス」と命名されることにより、正式に神の民の歴史、人類の歴史の一員になるのである。そして、マリアには、救い主としてのイエスの使命に、自分も深く一致するという母としての使命が与えられる。

マリアは、生まれたばかりの御子イエスを羊飼いたちに示し、天使たちのお告げを聞いた彼らを喜びで満たしただけでなく、今日も恵みそのものであるイエスを私たちに示し、与え続けられる。

1月1日は「世界平和の日」でもある。世界の人々と心を一つにして、賜物である平和を祈り求めるようにと教会は私たちに呼び掛けている。

(教区ニュース編集部)



主の母聖マリアは、

2025聖年のバスツアー 希望の巡礼者

福井・大野・敦賀への旅

11月15日(土) 聖年の巡礼バスツアー第二弾が行われた。今回は、名古屋地区のために企画した福井への巡礼で、参加者は31名。布池教会を朝7時半に出発した。松浦悟郎司教による聖年の意味についての話を心に、平和を願って、光の神秘を黙想してロザリオの祈りを唱え、自己紹介・巡礼参加の動機を分かち合い、最初の目的地である福井教会についての資料の朗読を聞いた。福井教会では主任のフリッツ・ポノンバン神父や信徒の方々に笑顔で迎えられた。全員で聖年の祈りを唱えた後、信徒代表からあいさつを受け、フリッツ神父による福井教会の歴史などの説明を聞いた。その後、福井教会信徒である平澤忠雄神父の妹さんも同乗し、バスで

大野へ向かった。車中では大野教会の歴史や信徒の手記の朗読を聞いた。先に来ていたカロール・ソンプタン神父、フリッツ神父と合流し、大野教会の11名の信徒と共に翌日の主日の典礼で松浦司教主司式でのミサを捧げた。その日の福音は終末的な描写のある箇所であったが、司教は説教の中で終末に関する聖書箇所や福音箇所は恐ろしい描写が多いが、むしろ終末は神の業の完成の時であり、待ち望むべき時であることだと語った。ミサの中で、信徒代表から挨拶があり、教会の小さな共同体の成り立ちと小さいからこそ互いの絆が強く、家庭的な雰囲気がある、互いに協力して支え合いながら共同体を維持していることが話された。

ミサ後、大野教会の信徒たちがお茶を用意してくれ、昼食を持参した参加者たちは教会に残って交流した。祭壇脇には教会献堂の折、スベインから送られた木彫の聖母子像があり、庭には屋根裏で見つけたルルドの聖母像が置かれていたという案内もしてくれた。

大野は、そばが有名でその日、市役所駐車場で行われていた「越前のおの新そばまつり」会場でそばを食べたり、天空の城と呼ばれる大野城と周りの紅葉を撮影したり教会近くの御清水(おしよず、日本名水百選の湧水)など近隣を散策して過ごした。

最後に敦賀の人道の港ムゼウム(資料館)と赤レンガ倉庫へと向かい、車中で聴いた資料の朗読を思い出しながら、ムゼウムでは日本赤十字社が受け入れたロシア革命の混乱の最中に親を失ったポーランド孤児を受け入れ、「命のビザ」で有名

なリトアニアのカナレスの領事館職員だった杉原千畝氏やその他の日本人たちの尽力でナチス・ド

イツの迫害を逃れることができたユダヤ人難民を迎えた国際港、敦賀港の歴史を伝える映画を鑑賞し、展示されていた資料を見ながら当時の日本人の人道支援の活動や難民たちを温かく迎え入れた敦賀の市民たちの様子を

知ることができた。赤レンガ倉庫では、かつての敦賀港のジオラマと敦賀港の歴史の変遷に関する映画を見た。

その後、17時半に敦賀を発ち、予定の30分以上早い19時半過ぎには無事、布池教会に到着。参加者の心を様々な巡礼旅の思い出で満たされた神の豊かな恵みに感謝である。

(教区福音化養成委員会)



カトリック福井教会



福井教会 巡礼団と信徒の皆さん



大野教会 巡礼団と信徒の皆さん



人道の港敦賀港ムゼウム



大野城

能登徒歩巡礼

11月22日(土) 11月23日(日)に、教区青年委員会の主催で、石川県

の巡礼指定教会(金沢教会、七尾教会、輪島教会)を巡り、能登地域の七尾教会から輪島教会までの50km以上の道のりを徒歩

で巡礼する「能登徒歩巡礼」を行った。教区内外から集まった6名の青年のほか、司祭2名、シスター13名の11名がこの巡礼に参加した。

1日目の朝に金沢教会に集まって7時のミサに与った後、七尾教会にバスで移動し、七尾教会にて祈りを捧げ、10時頃に徒歩巡礼を開始した。1日目のゴールは七尾教会

から30km先にある、のと鉄道の穴水駅で、のと鉄道の駅ごとに休憩をとりながら歩いた。19時30分に穴水駅に到着し、その日は銭湯に行った後、皆でカレーを食べて、バス

の中で車中泊となった。2日目は7時に穴水を出発し22km先にある輪島教会に向かった。14時30分に輪島教会に到着し休憩したのち、派遣ミサに与って、バスで金沢教会に戻り解散となった。

50kmの道のり、しかも震災によって崩れ、いまだ整備されていない道を歩いたので、道中アクシデントもあったが、青年たちが50kmの道を徒歩で巡礼できたことは大きな実りであった。道のりの中では、被災した家屋や仮設住宅の団地、曲がったままの標識など、震災の恐ろしさを感じる場

所も多かったが、巡礼者は聖歌などを歌ったり、いろんな話をしたり、明るい雰囲気歩き続けた。「希望の巡礼者」のテーマに沿って、希望に満ちた、希望への巡礼となった。

参加者からは「寒さと疲労が増す中、小さな石ころ1つが自身の雑さや、それが他者に与える痛みを顧みる機会となった。そんな道のりから仲間と共に弱さを分かち合い、互いが希望の光を灯し合えることを感じられた」という声をもらえた。

この巡礼によって参加者に与えられた希望の種が、豊かな実りをもたらすことを願っている。

(教区青年委員会 梁 良我)



「いこいの家」の歩みを振り返り、その意味を考えてみた。



2025年12月9日(火)、いこいの家でクリスマス会が開かれ、日頃から利用している方々約30名が集まった。

「いこいの家」のライフラインは、水・電気・ガスなど最低限の設備である。月に一度の炊き出しでは、炊飯器を使うために他の電気使用を控える工夫もしている。また冷蔵庫がないため、生鮮食品はその日に使い切るよう配慮されている。穏やかな天気のもと、皆で食卓を囲み、温かい食事を分かち合いながら、語り心温まるひとときとなっ

た。クリスマスプレゼントも、ささやかだが寄付金から用意し、集まってくださった方々に渡した。このような温かな集いは、いこいの家が歩んできた歴史の延長線上にある。

だからこそ、その歩みを振り返り、その意味を考えてみたいと思う。季刊誌「いこいの家ニュース」は1993年12月の創刊以来、現在までに第65号を重ねてきた。日本カトリック正義と平和協議会が発行した「正義と平和の50年」の記事を読みながら、故・相馬信夫司教が「いこいの家」に

託された思いを改めて心にめぐらせている。「いこいの家」は1988年に設立された。当時、後援会長であった故・由井滋神父はこう記している。

「仕事にあふれた人たちが安心して休める場所がない。」この言葉は30年以上前のものとは思えないほど、今もなお切実に響く。皆の思いと支えが、この場所を温め続けている。

ともに歩みを重ねていけるように。

いこいの家の住所…
〒453-0809
名古屋市中村区上茶野町3-3-1
(聖霊奉持布教修道女会 速水智恵美)

第4回 大切な家族・友人のために捧げる 追悼ミサ

11月、「永遠の安息のために祈る」とされている「死者の月」にカリタス福祉委員会では、死者のため、特に自ら命を絶った霊魂のため、遺された家族、友人、知人とともにミサを捧げている。第4回となる今年は、カトリック五反城教会聖堂にて主任司祭のアルディー・ハヨン神父とカリタス福祉委員会担当司祭の山野聖嗣神父による共同司式で捧げられた。

アルディー神父は説教の冒頭で、「死者とは肉体的な死を遂げた人を指します。物理的、目に見える存在です。そして霊魂は肉体を超えた非物質的な存在を指すのです。目に見えない存在です。このことから死者の月という表現よりも霊魂の月と表現するのが相応しい」と話された。続いてカトリック教会では「命は神からの贈物、愛のうちに神聖なもの、ゆえに頂いた命は神のみが唯一の權威を持つ、その命を傷つけたり奪ったりしてはいけないということを通して調ってきたことも事実です。しかし今は、自死した人の魂も神の權威のもとにあり、その霊魂の世界は神の領域にあるということを大事に、全ての



霊魂のために、神の憐れみと慰め、励ましを願ひ、葬儀ミサ、追悼ミサを通して、神の愛と慈しみが全ての死者の上に注がれるように願ひ、求め祈るように、教会全体に呼びかけています。神の御心を呼び起こさせ、神は耳を傾けて下さいます。主イエスのいつくしみを呼び覚まし、祈りの力によって私たちが亡くなった人の魂が結び付けられるのです。祈りが彼らへの一番美しい捧げものです」と結ばれた。

60名の参列者、遺影とともに参列されたかたなど、思い思いに静かに亡き家族、友人にふれる時間となった。ミサの後、ロザリオ一連を唱え、参加者で分かち合いの茶話会をした。

「自殺を考えて苦しんでいる人々が地域社会の中で、必要とする支え、思いやり、また愛を見出し、いのちの美しさに心を開くことが出来ますように。」

2025年11月の祈りの意向『自殺防止』教皇レオ14世による世界ネットワーク日本

(五反城教会 新谷栄子)

キリスト教一致祈禱週間

(1月18日～25日)

「すべての人を二つにし、信じるため」である。このことを強く意識するのためにキリスト教一致祈禱週間が毎年1月18日から25日に定められており、教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は1968年以来、毎年テーマを決めてエスを遣わしたことを世

世界子ども助け合いの日・献金

(1月最終日曜日)

「世界子ども助け合いの日」を呼びかける教皇庁児童宣教事業は、幼子イエスの保護にゆだねたことの希望から、聖なる子どもの会または幼子宣教会とも呼ばれる。その目的は「子どもたちを助けている子どもたち」を、キリスト者の子どもたちの運動を促進し、生み出すことである。

この日、彼らは自分たちだけでなく、世界中の子どもたちの幸せを祈願し、犠牲をささげ、支援を行う。日本では、各教会、カトリック系幼稚園、保育園の子どもたちが献



カリタスのとサポートセンター
電話: 070-1220-7495
メール: noto.saposen@gmail.com

ご注文の商品は、クロネコヤマト「この商品420」におさまるもの(A4サイズ標準・厚さ3cm以内)は、全国一律420円で発送させていただきます。それ以外のサイズのもの、クロネコヤマト宅急便にてお届けにて発送させていただきますのでご了承ください。

注文Googleフォーム→

ロゴカラーに合わせてオシャレな2色!

Tシャツ
色 パーガンディ&アイビーグリーン
素材 ポリエステル製
サイズ S・M・L・2L
各種 3000円

カリタスのとサポートセンター
**ののとなりに
押し活グッズ**

ご注文は右上のQRコードから
もしくはカリタスのとサポートセンターの
各ベースで販売中!

手ぬぐい
サイズ 900x350mm
1枚 1000円

ののとなりに
CARIKAS NOTO
support center

ステッカー
10cmサイズ 防水対応ステッカー
1枚 300円

シール
A6サイズに6枚のロゴシール付
1枚 250円

めぐみん ☆
ガンバレ!!
.....by あこ

昔々 今から遡るほど2030年ほど前...

あら? ☆

え? ☆

その子は
ザカリヤさんの息子
のちにイエスに洗礼を
授けることになる
洗礼者・ヨハネ

三博士を導く星は
あわや大きな
ミスを犯すところ
だった...
かも?

★イエスの誕生時ヨハネは生後6ヶ月

おっと違った!
こっちこっち!

どっちやねん? ☆

聖書の中の人物にも
子供時代があり
等身大の人間関係が
あった背景を想像
すると心が震える
のは私だけ?

聖年の扉が閉まって
心の中にはいつても
イエスの馬小屋に
繋がる霊的な扉を
持ち続けたい

肉の神秘を
受想しながら
...賀新年...
去?

691件 38,109,661円

目標額 40,000,000円 (2025年11月末日現在)

達成率 約95.3%

建設費の返済に協力を

<p>(祭) 祭日、(祝) 祝日、(記) 記念日</p>		<p>1月の教会暦</p>	
1日(木)	祝神の母聖マリア(降誕の八日)(祭)	世界平和の日	1日(木)祝輪島教会ミサ・七尾教会震災追悼ミサ*
2日(金)	聖大バジリオ 聖グレゴリオ(ナジアンゾスの)司教教会博士(記)		5日(月) 本部事務局仕事始め
4日(日)	主の公現(祭)		10日(土) 宣司評運営委員会*／典礼委員会コアミーティング／信徒協役員会
11日(日)	主の洗礼(祝)		13日(火) 樹の会
17日(土)	聖アントニオ修道院長(記)		15日(木) 月集*
18日(日)	年間第2主日		18日(日) 新成人と共に祝う「教区新年の集い」*
18日(日)／25日(日)	キリスト教一致祈禱週間		20日(火) カトリック看護協会例会
21日(水)	聖アグネスおとめ殉教者(記)		27日(火) 正義と平和委「学習会」・定例会
24日(土)	聖フランシスコ・サレジオ司教教会博士(記)	2月	1日(日) 聖心教会堅信式*／宣教司牧評議会*
25日(日)	年間第3主日(神のことはの主日)	7日(土) 殉教者祭(高山右近)	7日(土) 東海地区社会委員会*
	世界こども助け合いの日(献金)	8日(日) 安城教会堅信式*	10日(火) 樹の会／正義と平和委定例会
26日(月)	聖テモテ 聖テトス司教(記)	11日(水) 信徒使徒職協議会 感謝ミサ*	11日(水) 顧問会、月集*
28日(水)	聖トマス・アクィナス司教教会博士(記)	12日(木) 殉教者委定例会／典礼委員会コアミーティング／信徒協役員会	14日(土) 愛岐B会議
2月(主)の主な教会暦(主日祭日など)	年間第4主日	15日(日) カトリック看護協会例会	15日(日) 司祭評議会*
1日(日)	主の奉獻(祝)	17日(火) 濃尾B会議	26日(木) 司祭評議会*
2日(月)	年間第5主日	28日(土)	
8日(日)	年間第6主日		
15日(日)	灰の水曜日(大斎・小斎)		
18日(水)	四旬節愛の献金(四旬節中)		
22日(日)	四旬節第1主日		

告知板

◇1月の炊き出し

木 8日 ひまわり・南山・樹の会、

15日 聖霊・南山・樹の会、 22日 城北

橋、29日 布池

16日(月)～20日(金) 司教総会

金 9日 一宮、16日 布池、23日 長浦、

30日 恵方町

新成人と共に祝う
「教区新年の集い」のお知らせ

開催日時	2026年1月18日(日)	ミ　サ	14:00～15:30
		茶話会	15:30～16:30
場　　所	布池教会大聖堂		
	*今回は11:30～	地下ホールで能登の物品販売	
	13:00～	大聖堂で片岡義博神父（のとサポートセンターセンター長）の能登半島地震復興支援報告会があります。	

名古屋教区として新しい年を共に祝う目的の集いです。
多くの皆さんの参加をお待ちしております。

お知らせ
名古屋教区信徒使徒職協議会・活動休止
52年の歩み 感謝ミサ
この半世紀に寄り添い続けた祈りと奉仕に感謝

日 時 2026年2月11日(水・祝) 13:00～
場 所 カトリック布池教会カテドラル
主司式 名古屋教区長ミカエル松浦悟郎司教
主 催 名古屋教区信徒徒職協議会



サダナ ～神への道～
〈初〉【ダイアリー・サダナ】

聖イグナチオの霊性を基に、「心と知性の静けさ」「神様との個人的な
触れ合い」を体験します。

今回、名古屋で初めて、ダイアリー・サダナを開催します。

対 象 サダナ2参加経験者 4日間すべて参加できる方
日 時 1月31日(土)・2月1日(日)・2月7日(土)・8日(日)
※全日 9:30~17:00の開催
場 所 聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (駐車可)
指 導 植栗 彌神父 (イエズス会)
問合せ 攪上 宏 (かくあげ ひろし)
メール ngosdn@gmail.com
☎ 050-5897-5107

参加者喜びの声 右 QR コードよりご覧ください。



第19回 ホスピス聖霊講演会
テーマ：いのちに向き合う
～生と死の狭間の中で～

講師 松浦悟郎司教 カトリック名古屋教区長
日時 2026年2月28日(土)
講演 13:30～15:00 (その後、30分の質疑応答) *入場13:00～
会場 聖霊病院 2階 聖霊ホール
対象 一般
定員 100名 定員になり次第 締切
申込み方法
はがき、封書、または Eメールに、氏名・住所・電話番号をご記入ください。定員を越えましたら、ご案内申し上げます。
締切 2月13日(金) 必着

申込み先および問合せ先
〒466-8633 名古屋市長和区川名山町56番地
聖霊病院 ホスピス聖霊 看護部長 松川幸江
電話 (052)832-1181 Eメール budou@seirei-hospital.org

主 催 聖霊病院 ホスピス聖霊推進委員会
後 援 ホスピス聖霊後援会「ぶどうの会」